

主日礼拝

2026年9月13日 10時20分～

司式：

奏楽：

《神の招き》

前 奏 『キリストよ、あわれみたまえ』 J.S. バッハ
招 詞 詩編126編5～6節
賛 美 歌 203

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 申命記15章1～11節 (旧約289頁)
コリントの信徒への手紙二9章6～15節 (新約329頁)

子ども説教
交 読 詩 編 112編1～10節 (135頁)
賛 美 歌 566
説 教 「豊かに蒔く者は」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 567

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
奉 献 献金 祈祷: 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 39—6
祝 福
報 告
後 奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

「豊かに蒔く者は」

『申命記』15章1～11節では、七年ごとに負債を免除する「免除の年」について教えています。イスラエルの民は、同胞に貸した負債を七年目には取り立ててはならず、貧しい同胞を経済的に苦しめないようにすることが求められます。この制度によって、民の中に貧しい者がいなくなることが理想とされています。また、神の祝福を受けるのですから、同胞を支配したり搾取したりするのではなく、必要としている人に惜しみなく手を差し伸べることが大切だと説かれます。一方で、「この地から貧しい者がいなくなることはない」とも語られ、貧しい人々への配慮は一時的な制度に限らず、常に続けるべき責任であると示されています。これらのように、神から与えられた恵みを自分だけのものとせず、貧しい同胞と分かち合い、互いに支え合う共同体を築くことを求めているのです。

『コリントの信徒への手紙二』9章6～15節では、献金や奉仕に対するキリスト者の姿勢について語られています。著者のパウロは、「惜しんで僅かに蒔く者は、僅かに刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取るのです」と述べ、与えることの大切さを教えています。しかし献金や奉仕は、義務や強制によってするものではなく、一人ひとりが心に決めたとおりに、惜しまず、喜んで行うべきだと勧めています。神は喜んで与える人を祝福し、必要なものを満たすだけでなく、他者に分け与えることができるようにしてください。また、信徒の献金は困っている人々を助けるだけでなく、神への感謝や賛美を生み出し、与える人と受ける人との交わりを深めるものとなるのです。パウロはこの奉仕によって人々が神の恵みを認め、神を崇めるようになることを示しています。そして最後に、すべての恵みの源である神と、その計り知れない賜物であるキリストへの感謝を表しているのです。